

育子屋NEWS

2021. 10. 1

(お子さんが大人になったとき、社会で活躍できるヒントがいっぱい)

「ハーバードもケンブリッジも超える！」

～大企業の敏腕経営者が挑む、大学の改革～



「世界の大学ランキングというものがあります。これは、論文の引用率の高い研究者の数や引用数、学生1人当たりの教員数、外国人教員比率などで、質の高い大学を見るものです。私はこれで京大を抜きたいと思っています。さらには米ハーバード大や英ケンブリッジ大も超えるつもりですよ。」

僕の頭の中では50年先までの姿ができていますよ。先端科学大にはやがて医学部をつくれなかつとも思っている。今のままでは日本の大学は危ないんです。だから僕は世界に負けない大学をつくるつもりですよ。」

そう話すのは、売上高1兆6180億を誇る東証一部上場企業、日本電産株式会社の創業者であり、現在も同社の代表取締役会長をされている永守重信さんです。

彼は2018年3月、京都学園大学（現京都先端科学大学）の第14代理事長に就任されました。

なぜ大企業の現役の会長が大学の理事に就任されたのでしょうか？

そこには、現役で現場を見ている企業のトップならではの理由がありました。

日本の大学教育はどうなっているんだ！？

1944年、6人兄弟の末っ子として京都に生まれた永守さんは大学の電気科を卒業後、音響機器製作会社に就職し、その後同社子会社の取締役を経て1973年、彼が28歳の時に日本電産を創業します。

「情熱、熱意、執念」・「知的ハードワーキング」・「すぐやる、必ずやる、できるまでやる」の三つを経営哲学とし、日本を代表する小型モーター製造会社に育て、モーター事業においては世界トップシェアの業績を誇る世界的な大企業に育て上げました。

しかしその道のりは楽なものではありませんでした。

創業当時は一流大学卒の学生など採用できないので、名前も知らないような大学の成績もガタガ

々な学生を採用し、鍛えて鍛えて幹部を育成してきたそうです。

それが2000年頃からは京都大学、大阪大学、東京大学などの有名大学からも学生が入社してくれるようになりました。

それから10年以上経ち、今まで採用してきた約10000人の人事データを調べてみたところ、なんと卒業した大学と仕事ができるかどうかには全く何の関係もないことが判明したのです。

これに関し永守さんは雑誌の取材でこう話されています。

「その前からうすうすは感じていたけど、この時にはっきり思ったんです。『日本の大学教育はどうなっているんだ』と。その気持ちがだんだん強くなって2015年ごろには、矛盾をものすごく感じるようになったんです。『何のために一流大学卒を採用しているんだ。いったい偏差値とはなんだ!?!』とね。

うちに、ある国立のトップクラスの大学を出てきた社員がいる。ところが、この社員は受験のときに工学部の合格はちょっと難しいと言われ、少し下だけどやはり一流の別の国立大学の工学部に行こうとした。

そしたら親がどうしても元の志望の大学に行ってくれというものだから農学部に入ったということです。偏差値が工学部より下なので受かりやすかったからです。

でも、社会に出て出身大学の工学部を卒業した人に出会うと「負けたとを感じる」と言うんですよ。10年たっても。

私はこういう偏差値教育が日本の若者の閉塞感をつくっていると思うんですよ。それが若者の潜在能力を消してしまっているんです。」

100億円あまりの私財を投じ、いざ大学改革へ

そのような経験を経て2018年3月、永守さんは100億円あまりの私財を投じ、京都学園大学の理事長となります。

入学式に出席した時、学生たちの雰囲気には驚いたと言います。

当時の京都学園大学は、この大学を志望校にして・・・というよりは、他の大学に落ちて入学してくる学生が多かったのも、新入生のみんなが夢をなくしたような、落ち込んだ顔をしていたのです。

しかし式の後に何人かの学生と話したところ、結構しっかりしていて、潜在能力が低いとはとても思えないと感じたそうです。

永守さんが掲げた大学の目標は「即戦力となる人材の育成」です。

以前の京都学園大学は学力が十分でなくとも、ほとんど卒業させていたそうですが、まず永守さんはそれを辞めにしました。

卒業に必要な単位数を大幅に増やし、その単位をちゃんと取得し、十分な学力がなければ簡単に卒業できないようにしたのです。(日本の大学は海外と逆で、入学するのが難しく卒業するのは比較的簡単と言われているので、海外の大学と同じにしたのです)

次に「英語」と「体育」を必修にしました。

「英語」は当然のことながら、「体育」を必修に？と感じますが、体育といっても決して体育会のようなイメージではなく、人間教育の意味を持っているそうです。

「いいですか。今の若者はみんなスマートフォンばかりいじって、部屋にいる。だから、今の若い人はちゃんと人と話ができなくなっているんですよ。〇×のテストはできても、自分の考え方を持ってディベートするようなことはできない。

体育は雑談力とか協調性を養うんですよ。

体育の講義は、毎回いろんな学部から毎回違う学生が集まってやる仕組みにした。だから、サッカーをやったりすると、その都度、違う人とコミュニケーションを取らないといけなくなる。チームワークを考えないと試合にならないんです。そんなところまで変えるんですよ。」

永守さんの育てたい人物像とは？

永守さんは世界で必要とされている人材は 3P な人材だと仰っています。

- | | |
|------------------|----------------------------|
| プロアクティブ | ・ ・ 自分から進んで仕事ができる、積極性のある人 |
| プロフェッショナル | ・ ・ 専門能力の高い人、替えが効かない人であること |
| プロダクティブ | ・ ・ 生産性の高い人 |
- (※日本は欧米に比べ時間当たりの生産性は半分と言われています)

2021 年には京都学園中・高を合併し中高大一貫校となり、2022 年には技術者出身の企業経営者を育てる狙いでビジネススクールも設ける予定をされています。

社会で即戦力となれる、本当の意味で優秀な人材を育てるべく、永守さんの改革はまだまだ続いていくのです。

【入学式】 理事長の祝辞（抜粋）

「私は起業家なので、今までは学生を採用する側に居ました。ただ、一流大学卒かどうかは関係なしに、大卒に期待している人材が一向に出てこない。

大学を卒業しても英語もしゃべれない。経済を勉強し企業の経理に回されても決算書さえ作れない。そんな人材を生み出している今の大学教育に、多くの起業家は失望しているんです。

このままではいかんと強く思い、私はこの大学の経営に参画したのであります。

今の大学は**偏差値**と**ブランド主義**に固まってしまって、真の教育がなされていない。

偏差値とかブランドとかを重視する社会はすでに 30 年前に終わっているんです。

世の中はもう実力社会になっているんですよ。

私はこの大学を偏差値やブランドではなく、本当に社会に必要とされるような大学に変えていこうと考えています。

希望するならうちの会社に入社して、『社会で活躍するのは偏差値やブランドとは関係ない』とあなたたちが実証してくれたらいいんです。

今日ここにいる皆さんの中には〇〇大学に落ちたから仕方なくここに来た・・・という人がいるかもしれない。しかし、そんなこと関係ない。偏差値やブランドはもう必要のない時代なんですから。

99 歳のおじいさんが嘆いているのなら分かりますが、若いあなたたちが将来の希望を失ってはいけません。これから長い人生が待っているんですから 10 代で負けたなどと思わずに、逆に〇〇大学に落ちてここに入学できて良かったな〜と、そう思わないといけませんよ。ぜひ、一緒に頑張ってください。」

（入学式の祝辞より抜粋し、まとめてあります）

世界中で必要とされる力って何？

みなさんは、社会に出てから必要とされる力ってなんだと思いますか？
その力は日本だけでなく、どの国でも世界中で必要とされる力です。

その力とは「プロアクティブ（積極性）」

2018年3月、モーター事業で世界一の会社の社長である永守重信さんが、ある大学の理事長に就任しました。永守さんは世界中で仕事をしているので、世界で活躍できる人材を育てたくて、大学の理事長になったのです。

そんな永守さんが育てたい人材はどんな力を持った人でしょうか？

いくつかあるのですが、その中でも特に重要なのがプロアクティブ（積極性）のある人です。

どんな仕事でも失敗を恐れず、嫌がらず、積極的に取り組める人です。

そんな人になる近道はたくさんの失敗を経験することです。たくさんの失敗を経験すれば、その失敗から多くのことを学び、人としての器が大きくなるので、プロアクティブ（積極性）のある人になっていくのです。



「失敗だけが人間の筋力をつくります。」

成功ではなく失敗が器を大きくする」

永守重信 ～大企業の社長であり、大学の理事長～

自分の部屋の目立つところに貼って、読み返すようにしましょう。